

令和5年度 金沢大学附属中学校 自己評価表

学校教育目標 自由闊達な気風の中で、広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒を育成する。 (1) 自ら考え学び創造する生徒 (2) お互いに認め合い、助け合う生徒 (3) 心身ともにたくましい生徒				
本校の経営方針 (1) 金沢大学の方針、規則に沿った学校運営を行う。 (2) 学校教育学類、教職実践研究科や他の附属学校園との連携を密にして、附属学校としての任務の遂行にあたる。 (3) 生徒や教職員の自主性を尊重しながら、教育目標や目指す生徒像の具現化を図る。 (4) 金沢大学附属中学校のよき伝統を受け継ぎ、より良い校風の樹立と継承をめざす。				
評価項目	目 標	具 体 的 取 組	評価	次年度への主な課題
教 務	1. 総合的な学習の時間の系統性を重視し、より円滑に実施する。 2. 年間行事のより効率的な運用をはかり、行事の精選を行う。 3. 学習指導要領に対応した教育課程とその学習にともなう評価を円滑に実施する。	・創造デザイン科や総合的な学習の時間の内容を精選し、系統立てて実施する。	B	・創造デザイン科と総合的な学習の時間の学習内容や評価の方法等、工夫と改善が必要である。
		・学校行事の年間計画をより効率よく運用する。	B	
		・学習指導要領に対応した教育課程とその学習にともなう評価を円滑に実施する。	A	
生徒指導	1. たくましく生きるための社会性の基礎を養う。	・あらゆる場面で挨拶ができるよう指導する。	B	・学校生活を送るにあたって、時間を意識して行動することができた。 ・執行部や各委員会とタイアップして常時活動を生徒が主体となって取り組みをしていく必要がある。
		・時間を守り、行動することができるよう指導する。	A	
		・心豊かで思いやりがある言動、場面にふさわしい言動ができるように指導する。	A	
教育実習	1. 実習の諸活動を滞りなく行い、学生に実践的な指導力を育成する。 2. 学生が教育者としての使命感と社会人としての責任感をもてるようにする。 3. 教職大学院生が実践力を高められるよう、密に連携する。	・実習指導をさらに充実したものにするため、教員の業務を精選する。 ・学生が実習後も就業体験ができる機会を設ける。	B	・学校行事と学習支援で数名の学生がボランティアに参加した。今後は、実習後の実践的な経験の場を、計画的に確保していきたい。 ・ICT化の推進と指導の効率化により、教員・実習生ともに下校時間を意識できた。また、生徒会活動の見学、生徒との交流、教科を超えた研究授業参観などでも実習を支援できた。 ・校内研修会や授業参観等を通して、例年以上に院生が来校して意見交換などができた。
		・常に学び、改善しようとする姿勢を育む。 ・生徒に対する適切な言動と時間・期限等の遵守を心がけるよう指導する。	A	
		・教職大学院生が本校の学校研究にさらに関われるよう、支援・協力をする。 ・学校全体で実習の予定を共有し、研究授業の相互参観を推進する。	A	
研 究	1. 新設教科「創造デザイン科」の評価を試みる。 2. 学校外の教育組織との連携も踏まえた「特異な才能を有する生徒」への支援を実施する。 3. 「総合的な学習の時間」や「創造デザイン科」の授業内容、評価方法を検討する。	・「創造デザイン科」のカリキュラム開発と実践、評価を行う。	B	・創造デザイン科のカリキュラムを完成させ、これまでの研究成果と併せ、汎用的なモデルを提案する。
		・特異な才能を有する生徒への支援を実践する。	B	

「サイエンス」で実施される探究的な活動と、各教科等の資質・能力との関わりを検討する。

・探究的な活動に各教科等の資質・能力がどのように活かされるのかを検討する。

A

情報教育	1. 情報社会に参画する態度を育成する。 2. 情報活用実践力を育成する。 3. 情報教育環境を整備する。	・情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会に参画しようとする態度を育成する。	B	・ギガスクール構想に伴い、業務内容が大きく変わっているため、それに合わせた形に業務分担を見直していく必要がある。 個人に業務が集中しないような体制を作っていく。 ・学習用タブレット端末の運用体制は整いつつあるが、今まで以上に教員間の共通理解を図っていく必要がある。
		・技術・家庭科（技術分野）と各教科等が相互に関連を図り、情報を適切に収集、判断、整理、活用、発信するために必要な能力が身に付くよう指導する。	A	
		・学校内のICT環境、生徒学習用タブレット端末の運用体制の整備を行う。	B	
保健安全	1. 自他の心身の健康に対し主体的に関わる生徒を育てる。 2. 自他の安全に配慮できる生徒を育てる。 3. よりよい環境を積極的に創る生徒を育てる。	・心身の健康の保持・増進に主体的に取り組む生徒の育成を目指し、指導する。	A	・委員会活動を通してWBGTの計測と熱中症予防の呼びかけやピアカウンセリングなど生徒が主体となった活動を行った。 ・実践的な避難訓練を行うことができた。災害や事故防止の視点を伴った安全点検を実現していく。 ・総務委員がロッカーの整頓などに取り組んだ。内発的な動機付けによる活動に近づけたい。
		・よりよい安全点検を目指し、生徒・教員が連携して取り組む。	A	
		・清掃や学習環境の整備に積極的に取り組む生徒の育成を目指し、指導する。	B	
第1学年	1. 自分から学びに向かう生徒を育てる 2. 自分と友達の「違い」を積極的に見つけ、お互いの良さに気付くことのできる生徒を育てる 3. 自分には「ない」部分を見つけ、鍛えていこうとする生徒を育てる	・授業を中心とした様々な学びの場面で、教師から与える一方ではなく、生徒自らが学びに向かい、考えることのできるような指導の工夫を行う。	A	・日頃の授業を中心に、引き続き生徒自ら学びに向かえるよう支援する。 ・授業だけではなく、学校行事等においても、生徒一人ひとりの良さを見つけていく。 ・良い面をのばしつつ、身につけていない部分の成長を促していく。
		・普段の学校生活、学級・学年・学校での活動や行事を通して、一人ひとりの良さを見つけ、その良さを伸ばしていけるよう支援する。	A	
		・基本的な生活習慣、学校生活や部活動など様々な場面で、身に付いていないと思われる部分を補い、鍛え、成長していけるよう支援する。	B	
第2学年	1. 互いの個性を認め、思いやりを大切し、学校内外において、感謝や敬愛の気持ちを行動に移せるような学年集団を育成する。 2. 学校生活の中で、自主性を育て、授業を始めとした学校生活の中で前向きに取り組む学年集団を育成する。 3. 中堅学年としての役割を自覚させ、後輩のよき手本、先輩のよき支えとなるような学年集団を育成する。	・日頃の指導や学活、道徳等を活用し、お互いがより良い人間関係を築けるよう支援する。 ・修学旅行等の対外的な活動や日常の学校生活を通して、社会性が身に付くように支援する。	B	・学校行事や部活動等を通して、最高学年としてふさわしい言動ができるよう指導していく。 ・自己の行動に責任を持ち、思いやりのある行動がとれるよう指導していく。
		・生徒が考えた取り組みを奨励し、生徒自身が自ら考えられる機会をつくれるよう支援する。 ・生徒理解に努め、生徒に寄り添った指導を心掛ける	A	
		・行事や委員会活動、部活動等の中で、2年生として自分達がとるべき行動を考えさせ、実行に移せるように支援する。 ・集団を支えることの大切さを理解できるよう支援する。	A	
第3学年	1. 進路を自分事と捉え、目標の実現に向けて粘り強く取り組む、たくましい生徒を育成する。 2. 他者の気持ちや周囲の状況を推し量り、行動できる生徒を育成する。 3. 既成の価値観にとらわれず、広い視野を持ち、未来を切り拓いていける生徒を育成する。	・様々な場面、方法で進学や進路の意識を持たせる働きかけを行い、学習規律、学習習慣の定着を図ることによって、自分の目標に向けた努力の積み重ねを支援・指導する。	A	
		・さまざまな場面において他者の気持ちや周囲の状況に気づかせる働きかけを行い、よりよい行動ができるように支援・指導を行う。	A	
		・学級、学年、生徒会、部活動など、学校生活の様々な場面で他者との関わりにより、自分の良さに気づくと同時に、幅広い視野や価値観をもてるように支援・指導をする	B	